絶句（四季）　―　現代語訳　―

春暁

孟　浩然

春の眠りは心地よく、夜の明けたことさえ気づかなかった。
ふと目覚めると、あちらこちらで鳥の鳴き声が聞こえてくる。
思えば、昨夜は雨風の音が強かった。
花は、いったいどれほど散ってしまったことだろうか。

江南春

杜牧

見渡す限りの春景色の中に鶯が鳴きかわし、木々の緑と花々の紅が、鮮やかに照り映える。
水辺の村、山辺の町、酒家の旗が風に揺れる。
江南の地には、滅び去った南朝の四百八十もの寺々があったが、
そのたくさんの高楼が、煙る霧雨の中に立ち並ぶ。

秋風引

劉禹錫

いったい　どこから、秋風は吹いてくるのか。
物寂しい音をたてて、雁の群れを送ってくる。
この秋風は　今朝がた庭の木に吹き入ってきたが、
独りぼっちの旅人である私が、その音を　誰よりも先に聞きつけた。

江雪

柳　宗元

多くの山々から、鳥の飛ぶ姿は絶え、
全ての小道から、人の足跡は消えている。
だが一艘（そう）の小舟に、蓑と笠をつけた老人が、
ただ一人、寒々とした川の雪景色の中に、釣り糸を垂れている。